

# よりよい世界をとものにひろく

**目的:** ラオスの発展を阻害している要因について調べるとともに、ラオスにとってよりよい国際協力の在り方について考える。

**対象:** 小学校高学年～中学生

**時間:** 90分(45分×2コマ)

**準備するもの:** 「ラオス貧困の原因を考えよう」資料3枚、「青年海外協力隊・新井貴久さんの活動」資料

**学習の流れ**

時間(分)	学習者の活動	進め方とポイント
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオスは日本からこれまでに60年にわたり約2000億円の援助を受けてきた事実をふり返える。</li> <li>・「ラオス貧困を考えよう①～ラオス小学生の就学率と修了率」資料から、ラオスの貧困状態を把握。</li> <li>・学習課題の提示 「日本から50年間も援助を受けてきたラオスが貧困なのはなぜだろう」</li> </ul>	<p>「これほどの援助を受けてきたのだから、今のラオスはどうなっていると思う？」と問うた上で修了率を把握させ、予想とのギャップから授業を展開する。</p>
展開1 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオスの発展を阻害している要因について、資料を使って各自、ペアなどで調べる。 →資料「ラオス貧困を考えよう②～ラオス人の寿命」</li> <li>・日本に比べ寿命が短い理由をみんなで考える。</li> <li>・さらに資料を配付し、ラオス貧困の一要因として現金収入の低さがあることに気付く。 →資料「ラオス貧困を考えよう④～ラオス人のGDP」</li> <li>・ラオスの人々の現金収入を増やす援助の方法を考える。</li> <li>・班ごとに発表し、さらに意見交換をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料から発展阻害の要因を見出すのはやや難しいため、必要に応じてペアや班で考えさせてもよい。</li> <li>・資料③は平均寿命が短い理由を考えるやりとりの後で見せるとよい。</li> </ul>
展開2 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元青年海外協力隊の新井貴久さんの活動から、参加型援助の良さ(現金収入、人材育成、信頼関係)を見いだす。 →資料「青年海外協力隊・新井貴久さんの活動」</li> <li>・新井さんの活動の良さについて意見を出し合い共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新井貴久さんが生産や販売で携わったバッグなどの商品を実際に用意し、子供に触れさせて考えさせる。</li> </ul>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を書き、発表する。</li> </ul>	

**学習後の展開:**

- ・新井さんと同じように参加型の援助を行っている他の協力隊の活動を紹介する。
- ・例えば、同じくラオスに派遣された元青年海外協力隊の神田青さんの演劇指導の活動も、新井さんと同じように現地の人々(子供)の中に入り込み、それぞれの良さや意欲を引き出しながら行われている。なお、神田さんの活動は「ラオス初”子供ミュージカル”～その舞台裏 JICA青年海外協力隊活動紹介」として動画が youtube で紹介されている。

[https://www.youtube.com/watch?v=tKD2YWDNzn4\(2016/1/25\)](https://www.youtube.com/watch?v=tKD2YWDNzn4(2016/1/25))

ラオス貧困の原因を考えよう①

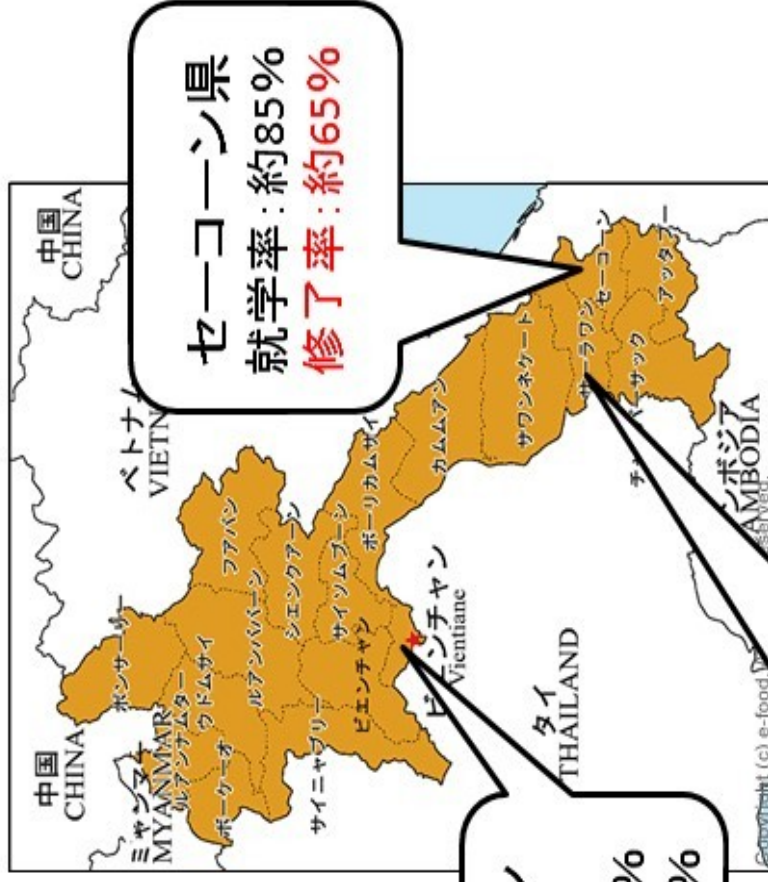
## ラオス小学生の就学率と修了率

	2008年	2012年
就学率 小学校に入学した割合	約92%	約97%
修了率 小学校を卒業した割合	約64%	約71%

※日本は就学率・修了率ともほぼ100%

ビエンチヤン  
(首都)

就学率:約99%  
修了率:約92%

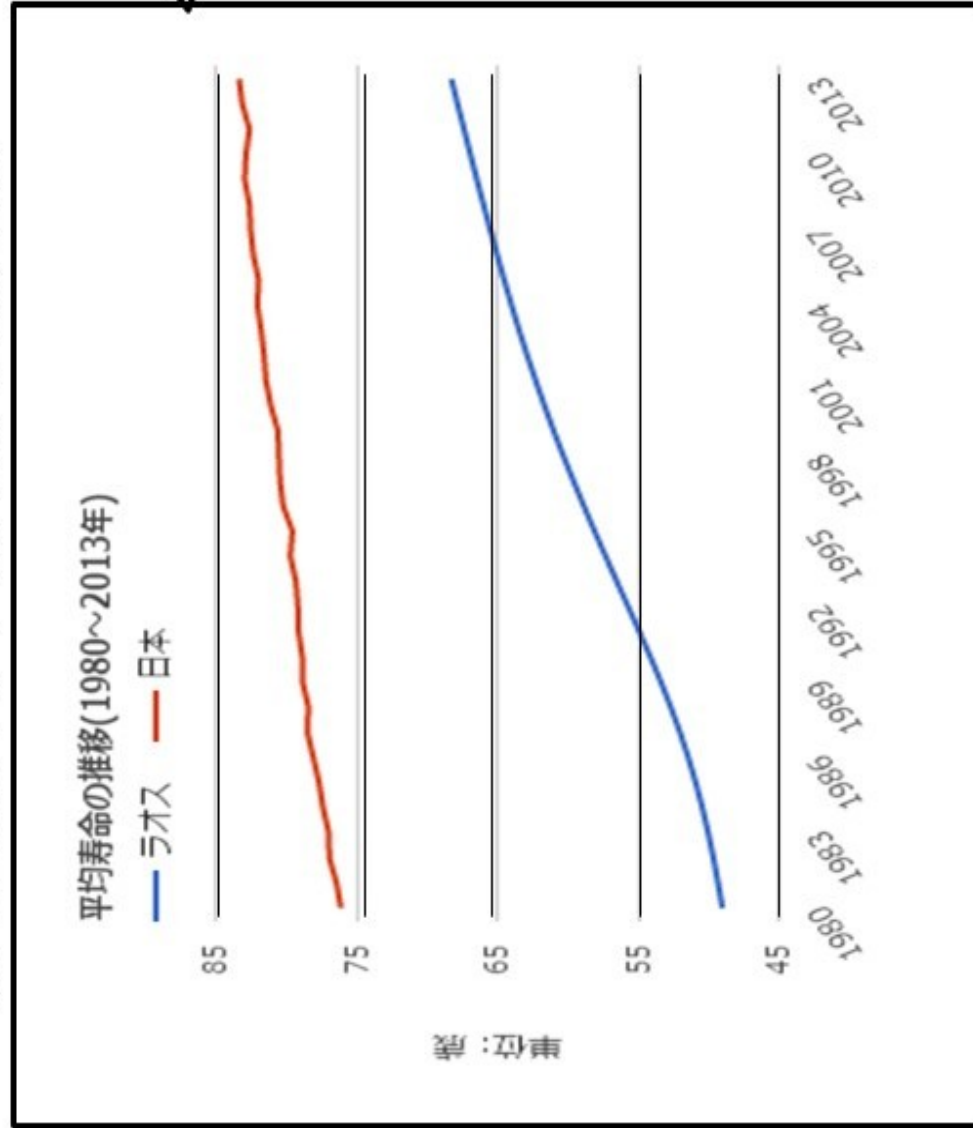


# なぜラオスの 小学生の修了率は 低いのだろう？

ラオス貧困の原因を考えよう②

## ラオス人の寿命

### 【ラオスと日本の平均寿命の移り変わり】



上の線が日本、下の線がラオスです。比較してみましょう。

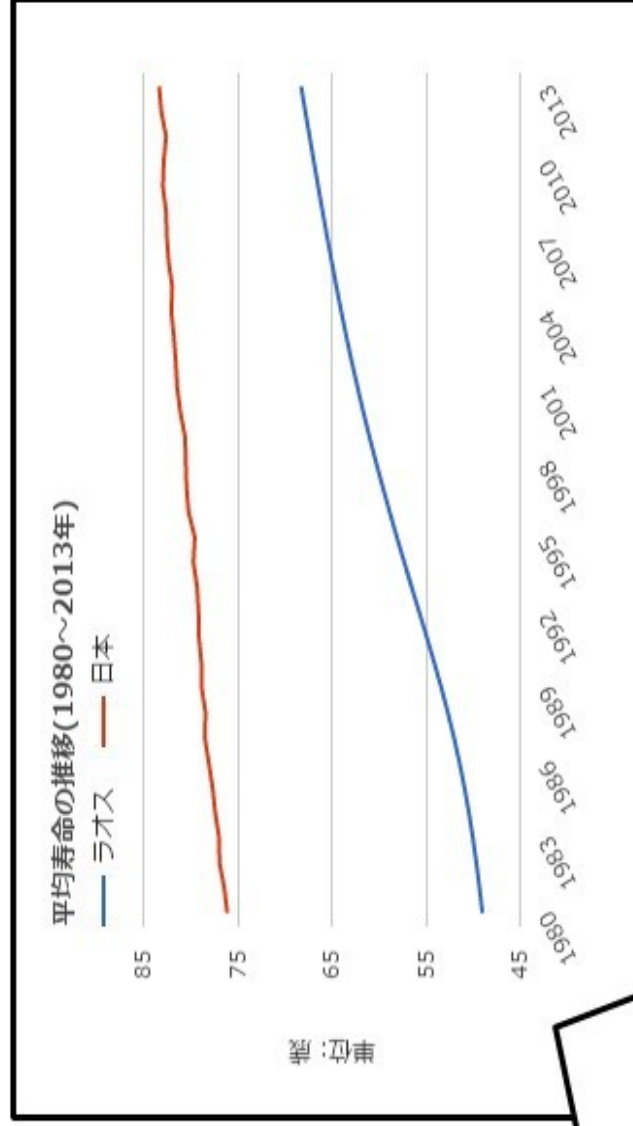
〈分かったこと、気づいたこと、思ったこと〉

引用資料:「世界経済のネタ帳」[http://ecodb.net/exec/trans\\_country.php?type=WB&d=LE00IN&c1=LA&c2=JP](http://ecodb.net/exec/trans_country.php?type=WB&d=LE00IN&c1=LA&c2=JP) (2016年1月)  
参考資料:ブレインワークス・中川秀彦編著『ラオス成長企業』(カナリア書房2012)

ラオス貧困の原因を考えよう③

## ラオス人の寿命②

【ラオスと日本の平均寿命の移り変わり】



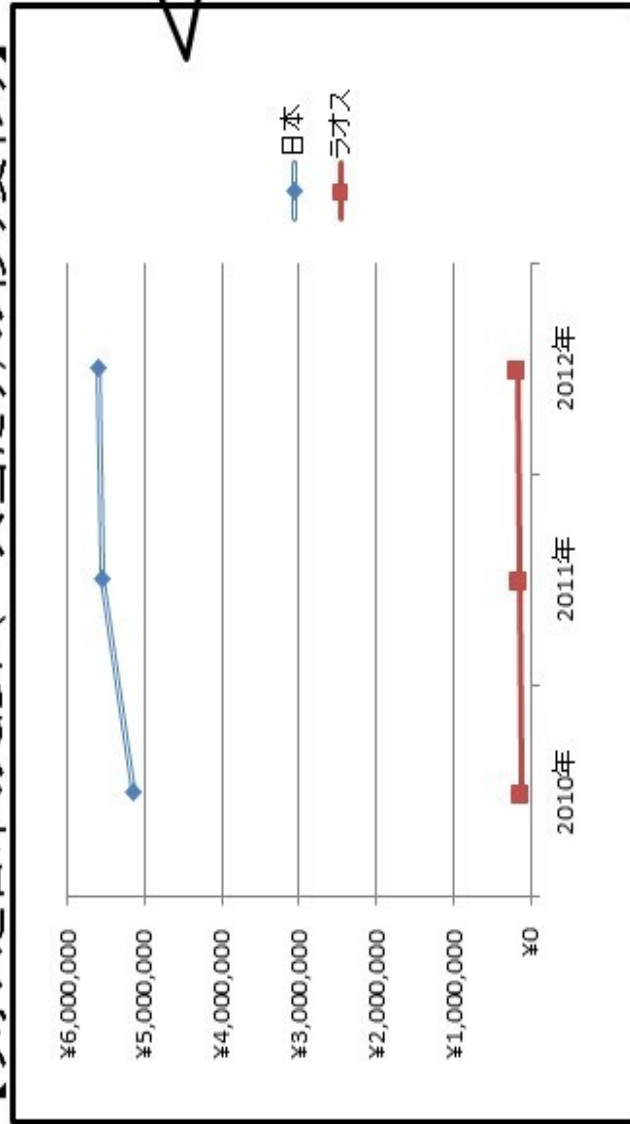
ラオスでは病気になっても、病院に行くお金がないことが原因で、医者にみてもらえない家庭が多くあるそうです。とくに地方では、金銭的な問題からがまんできない状態になって初めて病院に行くケースが多いため、手遅れの場合が多いそうです。また病院に行くことができないことで、乳幼児の死亡率も高くなってしまいます。都市では病院に行ける人が増えていますが、地方に住む人々の平均寿命は50歳前後だと言われています。

引用資料: 「世界経済のネタ帳」[http://ecodb.net/exec/trans\\_country.php?type=WB&d=LE00IN&c1=LA&c2=JP](http://ecodb.net/exec/trans_country.php?type=WB&d=LE00IN&c1=LA&c2=JP) (2016年1月)  
参考資料: ブレインワークス・中川秀彦編著『ラオス 成長企業』(カナリア書房2012)

ラオス貧困の原因を考えよう④

## ラオス人のGDP(一人当たり)

【ラオスと日本のGDP(一人当たり)の移り変わり】



GDP(一人当たり)とは、国民一人当たりが一年間でもうけた金額のことを言います。

〈分かったこと、気づいたこと、思ったこと〉

【ラオスと日本のGDP(一人当たり)の金額(2012年)】

	GDP (年間一人当たり)	GDP (一月当たり)
日本	560万円	47万円
ラオス	17万円	1万4千円

引用資料:「世界経済のネタ帳」[http://ecodb.net/country/LA/imf\\_gdp.html](http://ecodb.net/country/LA/imf_gdp.html)(2016年1月)

## 青年海外協力隊・新井貴久さんの活動

ラオスの首都ビエンチャンから飛行機で北に約1時間行ったところに、ウドムサイ県がある。そのウドムサイ県の産業商業局さんぎょうしょうぎょうきょくのマーケティングセンター（PMC）に新井貴久さんが働いている。

PMCでは植物の繊維せんいや綿を使ったバッグやポーチ、帽子などの手工芸品しゅこうげいひんが売られている。「8つの村の女性グループが作っています。彼女たちが暮らす村は山間やまあいにあり、みんな農業をして食料を確保しています。そのような村人たちにとって、手工芸品しゅこうげいひんの売り上げは貴重な現金収入になります」と、新井さんはインタビューに答えている（国際協力機構発行『ムンディ』2014年1月号）。新井さんは元銀行員で、多くの企業きぎょうを見てきた経験を生かし商品が売れるための展示方法を考えたり、商品を説明するポップ（説明書き）やパンフレットなどを現地のスタッフと一緒につくっている。



新井さんに案内されて、ぬかるんだ赤土の道を4WDで1時間半ほど行くと、ラオスの少数民族が暮らす村に着いた。新井さんに親しく話しかける現地の女性たちの姿を見ていると、彼がこれまで築いてきた信頼関係がよく分かった。

この村でつくり出されるバッグは、クズなどの植物を使っていて丈夫で水にも強く、軽い。村の女性たちに受け継がれてきた高度な伝統技術でんとうぎじゆつが細やかに生かされている。

新井さんが力を入れているのが、村人たちの技術を生かしながら、なおかつ「観光客に売れる」商品づくり。村美とが普段つくるバッグは大きすぎてお土産に向かない。また色も天然の茶色で地味に見える。そこでサイズを小さくしたり、染めたひもを使ってカラフルにするなど、観光客の目を引く新しいデザインを取り入れることを提案している。しかし、伝統を守ってきた村人たちにとって新しい取り組みを始めるのは簡単ではないそうだ。「言葉だけで説明してもイメージがわかりませんよね。まずは自分からやってみせて、その後は現地の人たちの自主性に任せまかせるようにしています」（前掲誌）と新井さん。新井さんがPMCに来てから売り上げは2倍以上に増え、手工芸品を生産してくれる女性も70名から150名に倍増した。